

## 「平成29年度新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏共生ビジョン懇談会」会議概要

1 日 時：平成30年3月29日（木）午前10時～午前11時45分

2 会 場：本庁舎5階 会議室501、502

3 出席者：桑原会長、高澤（誠）委員、相馬委員、加藤委員、平川委員、鈴木委員、田中（正）委員、水戸部委員、田中（厚）委員

【事務局】新発田市みらい創造課：山口課長、小林課長補佐、山田係長、伊藤主事

新発田市高齢福祉課：星野課長

新発田駅前複合施設：平田施設長

胎内市総合政策課：小熊課長、川崎係長

聖籠町総務課：近藤課長、久保主事

4 会議概要 ※次第に沿って進行 司会進行：小林課長補佐

○開会

○議事

### 「1 新たな取組の追加について」

【事務局】

※「資料1」により、概要説明。政策分野「生活機能の強化」の、「福祉」区分及び、追加された「教育」区分に追加する、新しい2つの取組について説明  
（「在宅医療・介護連携推進事業」及び「図書館相互利用推進事業」）

【会長】説明を受けて質問等の確認

#### ◀「在宅医療・介護連携推進事業」についての質疑応答▶

【委員】在宅でのサービスの締結とあるが、在宅希望が増えているのか。

【事務局】国の方針として、在宅の考え方がある。施設に入れない状況であり、在宅介護が増えていると思われる。

【委員】「介護」とは「介護をする側」「される側」も含めて「介護」と解釈していいのか。

【事務局】両者に対してである。

【委員】「医療」と「介護」の連携において、現在は「医療」が強く、「介護」の立場が弱いことから、広域で取り組む際は、両者を意識して進めていただきたい。

【委員】高齢者の数は今後変動するが、予算額は3市町ともに3年間同額でいいのか。

【事務局】事業費のほとんどを人件費に充てる予定であり、将来的に見直しは必要だが、平成31年度以降の金額が未定であるため、平成30年度と同額を記載している。

### 「2 共生ビジョンの改定箇所について」

【事務局】

※「資料1」及び「資料2」に基づき、2つの取組を追加するための修正と、従来の事業において、若干の修正があることを説明

【会長】説明後の意見確認（意見なし）

### 「3 連携事業等の進捗状況等について」

#### < I 生活機能の強化 >

【事務局】

※「I 生活機能の強化の取組」の進捗状況について説明

【会長】説明後の意見確認

#### ≪「新発田市、胎内市、聖籠町広域観光圏づくり推進事業」について≫

【委員】外国の方は日本の冬や、ウィンタースポーツが好きだと思うが、今後の誘客促進の取組提案としてはどうか。

【委員】確かに需要はあり、県内では先進的に上越地区が取組を実施しているが、下越のスキー場は少数かつ、宿泊地の条件が好条件ではないため、具体的な取組は行っていない。

【委員】海外の方は田舎や、不便な場所に向かう傾向があると思う。

【会長】少しずつでも冬期の課題に取り組まなければ、海外旅行客は増加しない。小型だが良いスキー場もある。外国の方には、民宿の方が楽しく、温泉に入れて、地元との繋がりを持つことができると考えている人もいる。個人の情報発信により、こちらが予想していない広がり生まれて、大型のスキー場とは全く違う魅力を提供できる可能性がある。

【委員】実際に取り組む自治体から、沢山の来訪客に対して、受入体制が整わず、困っているという話を聞く。有益な点もあるが、体制が整っていない中での受入が一番の課題である。

【会長】様々な外国語版のマニュアルの整備は必要であり、その点は自治体が主体となって整備をしていかなければならない。

【委員】言葉はスマートフォンがあれば解決できる。トラブルもあるかもしれないが、インスタグラムの影響等で、一人から沢山の観光客が訪れるようになる。色々試してみても良いのではないか。

【事務局】県内のインバウンドは、ウィンターシーズンのイメージがあるが、それを少し変えたのがグリーンシーズンで有効な「阿賀北ゴルフ三昧」プランであり、非常に好評を得ている。まずは、県内でも阿賀北圏域が始めに着手した「ゴルフ三昧プラン」をメインコンテンツとして進めることとし、ウィンターシーズンの件については担当に伝えたい。

【会長】新しい取組へ全面的に転換するのではなく、新しい取組も少しずつ並行して取り組むことが大切である。

#### ≪「広域連携による有害鳥獣駆除事業」について≫

【委員】協議会により策を講じてきたが、地域の方々の理解があまり得られていない。圏域の取組として、自治体だけでなく、地域の方々にも参画いただき、一緒に対策を講じていく意識を持ってもらう必要がある。

【事務局】各市町の担当者も非常に頭を悩ませている部分である。地域住民への周知の件について担当へ情報提供を行う。

【会長】住民の協力とは、どのようなものが想定されるのか。

【委員】例えば、有害鳥獣への捕獲用の罠を仕掛ける場合に、誤って罠に近づかないよう周知・協力依頼を行っている。また、銃器による駆除に抵抗を持たれる方がいるため、周知を行いながら取組を行っている。

## <Ⅱ結びつきやネットワークの強化>

【事務局】

※「Ⅱ結びつきやネットワークの強化に関する取組」の現状について説明

【会長】説明後の意見確認

### ≪「各スポーツ大会等の合同開催」について≫

【委員】各市町の大会はそれぞれ歴史のある大会であり、一堂に会して大会を実施するためには、新たな取組の計画、日程等の調整が必要である。また、現状としてスポーツ少年団の入団数が年々減少傾向にあるため、改善方法について各市町で連携して検討したい。

【会長】定住自立圏を形成したからといって、すぐに3市町の大会をすることは難しい。他の市町から、現在、開催されている大会に参加してもらうことは可能か。

【委員】それは問題ない。

【会長】他の市町からも参加してもらい、一緒にやってみることから始めるのも一つである。

### ≪「婚活支援事業」について≫

【委員】前回の会議で、婚活の後のアフターフォローとして、カップルを結婚に繋げていく工夫が必要であると申し上げたが、その後の取組はどうか。

【事務局】9月29日に3市町で先進地視察を行い、分析結果をまとめているところである。これから各首長に結果を報告し、どのような方策が一番効果的なのかを判断していただくこととしている。

【会長】婚活サークルは、圏域外の方も参加できるのか。

【事務局】圏域に限らず参加可能としている。婚活サークルは、共同の活動をすることで、印象を深めることを目的とした取組であり、今年度は新潟のタウン情報誌「komachi」と連携して、広く参加をいただいている。少人数制では参加しづらいなどの声もあったため、広域で取り組むことは、非常にメリットがあると考えている。

【会長】良い取組だと思う。出会ったばかりの人と結婚するかしないかを決断しなければならない緊張感を持って参加するよりは、若い人同士がまずは知り合いになり、複数の中から徐々に気が合う人と自然にカップルになり、結婚へと結び付けばより良い。例えば、「ホテル泉慶」で、婚活の大規模イベントとしてパーティを実施しているが、新発田市、胎内市、聖籠町、また圏域外の方の参加割合を把握しているか。

【事務局】担当がデータを分析している。200人規模でのパーティであり、非常に人気があることから早々に定員に達している。事業については、にぎやかに行う大規模なイベントや、サークル的に少人数で楽しむもの、また、1対1の出会いを求める県のマッチング事業など、あらゆるジャンルから一番合うものを選んで参画いただく手法を取っている。

【会長】女性の申込が少ないということもあるようだが、男性が近場以外のイベントに参加することも一つである。最初は婚活サークルのようなりラックスした雰囲気イベントに出てみるなど、相手が来てくれるのを待っているのではなく、自分から出ていくことも必要である。

【委員】婚活の取組について褒めたい。ライフデザインセミナーがすごく充実しているのので、40代50代が婚活を諦めなくなった。また、「ホテル泉慶」でのイベントが大好評だったのは聞いており、確実に成果は出ていると思う。

### <Ⅲ圏域マネジメント能力の強化>

【事務局】

※「Ⅲ圏域マネジメント能力の強化に関する取組」の状況について説明

【会長】説明後の意見確認（意見なし）

※議事終了

○閉会